

令和6年度 伊那市立長谷中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<p>学是「不撓不屈(ふとうふくつ)」</p> <p>心豊かに たくましく 創造力溢れる生徒</p> <p>～生徒自身とふるさと長谷の ウェルビーイングを目指し、 エージェンシーを育む学校～</p>	<p>○思いやりの心を育む。</p> <p>○自主的、自発的な学習態度を育み、学力、体力の向上を目指す。</p> <p>○自分で考え判断し行動できる力をつける。</p>
	今年度の重点目標
	<p>(1)地域に根ざした学習を通して「ふるさと長谷」に誇りと愛着を持つ生徒の育成 信州型コミュニティースクールの活動推進～ふるさと長谷を元気づけるために～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの中の食 活動の推進 農業体験 給食の食材栽培 食文化体験 ・地域の皆さんとの協働作業 花壇、花づくり、唐辛子栽培、ラー油づくり ・南アルプス太鼓、音楽部の地域行事での発表 ・より良い長谷、より良い長谷中の創造
	<p>(2)人とのつながりを大切にし「思いやりの心」を育む生徒の育成 地域の交流拠点としての学校 ～交流体験を通して学ぶ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長谷の縁側・縁日」、地域全戸への花苗の配付 ・サンハート美和(老人養護施設)へのふれあい訪問 ・地域参加型の文化祭・運動会 伊那養護学校との交流

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)地域素材を課題に据えて問題解決的な学習を行い、地域に根ざした長谷中ならではの行事や学習に主体的に取り組むことができた。生徒会活動や行事等に主体的に参加しやりがいを感じていると答えた生徒は91%である。暮らしの中の食では、野菜の種類毎に学年を越えたグループを編成し、調査や地域の方への聞き取り等を行って生徒主体で育成を行った。	A a	○活動の目的と手段を見返し、地域で学び地域に貢献する活動を続けていく。「人の役に立つ」経験や自己効力感を感じる場面を大切にしつつ、自分で課題を設定し追究する場面を積極的に設けて「ふるさと長谷」への誇りと愛着をさらに高めたい。 ○地域や社会の役に立ちたいと思っている生徒は88%であった。地域への思いをもって活動する生徒が多い中、今後も異なる立場に立って考えたり、多角的に考えたりする機会を設け、キャリア教育と連携させ展開していく。
(2)地域との協議の場である「長谷サミット」で出された交通手段の問題を解決すべく、生徒会が主体となって「出張長谷の縁側」を公民館4カ所で開催した。長谷地区内全戸パンジー配付活動は今年度も継続して実施し、地域の方と直接関わる機会となった。「ふれあい訪問」では、福祉施設の訪問交流を行ったりイベントでの太鼓演奏を行ったりした。伊那養護学校との交流も継続して実施し、豊かな心を育てる学習に対して保護者からも高評価(91%)を得た。	A a	○生徒の主体的な取り組みを大切にしながら、地域の方と関わる活動や福祉活動等を引き続き位置づけていく。生徒と地域の方々の安全・安心に留意しながら、これらの活動や職場体験、保育園・小学校と連携した防災訓練など地域の方やお年寄り、また園児や小学生とのふれあいをさらに充実させ「立場を変えて思考できる生徒の育成」を目指していく。
(3)学校評価生徒アンケートでの「授業では自分から調べたり考えたりしている」の到達度89%、「地域との交流活動は、私の力を伸ばすことに役立っている」で88%。小規模校の利点を活かした小中合同の活動や、学年を横断した学習形態で主体的に学ぶ環境を継続したい。全職員が一公開授業を実施し、授業力の向上に取り組んだ。評価アンケートにおける保護者の「家庭でも進んで学習に取り組んでいる」の到達度が59%、生徒は81%で乖離があるため、内容などについて見直したい。	B b	○小規模校の利点を活かした教育活動を継続し、「主体的な学び」につながるように改善していく。同僚性を発揮した学び合う集団として授業研究や公開授業、研究会などを通して授業改善に努める。 ○連続性のある家庭学習の在り方やテストと評価の在り方、学びの複雑化などについて協議し授業改善に取り入れていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○個々の生徒につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程が展開できたか。
		○主体的に取り組める教育活動の展開	○関心・意欲・態度の向上を目指しながら特色ある・魅力ある教育活動が展開できたか。
	学習指導	○「分かる授業」「魅力ある授業」の実践	○教えること、考えることを明確にするとともに、学び合う場の設定や喜びを大切にしながら「分かった」「できた」という成就感を持って終える授業ができたか。
		○生徒の学力が定着し発展を目指す個別最適な学習の実践	○個々の課題を的確に把握し主眼を明確にししながら学習問題を位置づけ個々の生徒の力を伸ばす授業ができたか。
	部活動	○主体的に取り組める部活動の実践	○個々の目標を明確にしながら意欲的に部活動に取り組める指導ができたか。
		○生涯親しみを持つ基盤としての部活動運営	○生徒・保護者・他団体と連携を円滑にしながら活動を発展させることができたか。
生徒指導	○生徒理解に基づいた個々の生徒への指導	○生徒の心情を大切にして、背景を考えながら指導すると共に報告・連絡・相談を密にしながら生徒指導ができたか。	
	○教育活動との連携や人権感覚に基づいた適応指導	○「道徳授業」や「福祉活動」の実践及び人権感覚の育成ができたか。 ○いじめをしないさせない みのがさない「思いやりの心」を育成できたか。	
学校運営	安全	○安全の保持	○学校の施設・設備は安全で学びやすい環境に整えられているか。
		○安全の確保	○安全指導がきめ細かくなされ情報伝達も素早く行き渡り安全の確保がなされたか。
	との連携	○通信や授業参観等を通しての理解	○学校だよりや学年だよりHP等で学校の様子や現況を積極的に知らせたか。 ○授業参観・行事参観等を通して学習指導に関して保護者に理解してもらえたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○「学校の行事や生徒会活動等は楽しい、やりがいがある」の到達度は生徒91%だった。自分たちの考えが反映させられる生徒会活動や総合的な学習等の取組みであるよう、引き続き努めたい。	A b	○小規模の利点を活かし、どの生徒も意志決定に関わる立場を体験できるよう支援していく。教科横断的な資質・能力や数字に表れない学力を高めるための指導のあり方についても研究していく。
○「地域との交流活動は、人とかかわる力や願いを実現する力など、私の力を伸ばすことに役立っている」の生徒到達度は88%で昨年と同値で高水準を維持している。学校の活動の満足度に繋がっている。地域の協力を仰ぎながら持続できるようにしたい。	A a	○生徒が自ら考え、自ら行動する機会や経験ができ、教科で身につけた見方・考え方を活かした創造的な活動にしていきたい。また、生徒一人一人の努力や成果が認められる場を多く設定し、次への意欲につなげていく。
○「授業が楽しく分かりやすい」と評価した生徒は84%であった。分かりやすさだけではなく、自ら学ぶ姿勢を育成するために、見方・考え方を活用して物事を見つめたり、各教科で学んだ学び方を複数の教科の学びに活用したりする機会を設けたい。	A b	○全国学調などのアセスメントを活かし、長谷中学生の実態に合わせた授業改善の柱を決めだし全職員で取り組む。 ○達成感を感じられるような学習環境づくりを行う。
○「先生は分かるまで教えてくれる」の生徒到達度は89%、保護者74%で昨年度より向上した。放課後学習に取り組んだり、授業外に質問する生徒が多く見られたりする。「家庭でも自主的に勉強に取り組んでいる」は生徒80%、保護者61%で課題。	B b	○定期テストや総合テストなどの分析を行い一人ひとりの実態に合わせた学習支援を行う。生徒が自ら学習を進められるよう、新しい試みを授業に取り入れていく。 ○小中連携を大切に9年間の学びを進めるとともに、保護者への説明を継続していく。
○学校評価における「部活動は楽しく充実している」の達成度は生徒96%、保護者90%だった。生徒の目標を確認しながら進めていきたい。	B b	○平日の活動は2時間、休日は3時間として生徒の健康と家庭での時間との折り合いをつけた活動を継続していく。
○ソフトテニス部は少人数での活動であるが意欲的に活動している。音楽部は学校花壇の前で、恒例となっている春と秋のコンサートを実施したほか、要請を受け地域の福祉施設やイベントで演奏を披露した。	B a	○地域との交流を意識しながら活動していく。休日は部活動指導員の支援を受けながら活動しているが、地域移行については長谷の地域性を考慮しながら市と協議しながら進めていく。
○「教師が親身になって相談のってくれる」の到達度は生徒が82%、保護者75%だった。生徒が気軽に相談できるよう、雑談会を通じたリレーションづくりや学年での個別面談などで、生徒の気持ちにより添えるように取り組んでいきたい。	B b	○定期的な生徒面談、「何でも雑談会」等により生徒が相談できる機会を増やす。 ○小中連携やQU等を活用し、個に寄り添った生徒指導を行う。 ○生徒指導や実態を共通理解全職員で指導するために常に情報共有する。
○養護教諭が生徒のSOSアンケートを実施し、実態をとらえるようにした。人権教育月間や道徳、学級活動から人権感覚の育成に努めた。地域の福祉施設や伊那養護学校との交流を通じた相手意識の深化の場面を設け、生徒の姿の変化を感じている。	A a	○全教育活動において、人権意識の伸長を意図した指導と支援を継続して行う。自らの生き方を考える道徳教育や多様な人と一緒に社会を構成する意識の育成に一層力を入れて教材を使った道徳、他の領域とつながる道徳のカリキュラム作りに努める。
○「安全で学びやすい環境」についての到達度は生徒87%、保護者87%だった。滑りやすかったランチルームへの渡り廊下の防滑塗装を行ったり、実施校舎の破損箇所の早期の補修で安全確保に努めた。	A b	○毎月「安全点検」を実施し、修繕場所があれば関係各所と連絡をとり迅速に対応する。避難訓練は場面や時間等条件を変更しリアルな訓練に向上させていく。また、今後学校以外でも生かすことができる防災意識を育てる。
○保育園・小学校と共催で、中学校を一次避難場所とした保護者への児童生徒の引き渡し訓練を実施した。また、定期的な避難訓練のほか、地震体験車による巨大地震体験などを行った。	A b	○小学校や保育園、保護者や地域と連携し安全に関わる対応を進める。「はせっこ見守り隊」「子どもを守る安心の家」「安全マップ」の更新を総合支所・公民館・長谷小学校と連携して行う。
○「家庭や地域への情報提供、学校公開を積極的に行っている」の保護者の評価は88%、「縁側活動や高齢者施設訪問、花壇づくりなどの活動は、生徒の豊かな心を育てることに役立っている」は91%だった。来校機会や情報発信を継続していきたい。	A b	○保護者や長谷学区地域支え合いの会などの協力を仰ぎながら、生徒が自ら考え自ら行動する資質・能力の育成に向け、協働していきたい。学校ホームページを活用した情報発信を継続したい。

	○学校から地域への発信と協力・連携関係の構築	○学校理解に向けて積極的な情報伝達を行い地域の方々との協力により豊かな教育活動の追究ができたか。	○「将来、地域や社会、知らない人の役に立ちたいと思っている」の生徒到達度は88%、保護者到達度は68%だった。生徒の到達度の高さは、地域の理解と協力の成果と感じている。保護者に生徒の成長の姿を伝えていきたい。	A a	○「私は自分なりの将来の夢や目標をもっている」の生徒到達度68%をも高めるため、キャリア教育や総合的な学習の時間での地域との関わりを充実させ、生徒自身の生き方を考える機会としていきたい。
研 修	○同僚性に基づいた研究・研修の実現	○研修会・研究会・各会議等が教育実践に効果的に作用しているか。 ○職員間の意志の疎通が図られ信頼関係に基づいた教育活動ができたか。	○「生徒・学級・学校・地域等の個性や特長を生かし、「特色ある教育活動」を展開している」と98%の職員が回答。「生徒は「できた」「分かった」「伸びた」「変わった」等の成就感をもって授業を終えることが多いと感じている」と86%が回答している。	A b	○「生徒の個性や特性を捉え、個別最適な学びや協働的な学びを展開している、しようとしている」への「している」との職員回答が80%に向上したが、引き続き小中や職員相互の研修を進める。